

巻頭言

常務取締役 山本 武美



展と轍を一にして高度に発達し、鉄鋼製品の品質や価格競争力の向上、さらには新製品の開発

たとえば、パワーエレクトロニクスの進歩にともなって、鉄鋼に多い大容量モーターにも交流化が一般的となり、保全性だけでなく、制御精度やコストなどでも直流機を大きく上回るようになってきた。センシングの分野では、CCD カメラなどの検出器の進歩に加えて、画像処理などの情報処理機能を有する、いわゆるインテリジェントセンサーが登場し、定量的に把握できる事象の拡大を遂げて、製品品質保証の品質そのものの高度化に貢献してきた。一方で

その運営技術が向上し、低在庫・短納期の達成に著しい成果が上がっている。しかし、連続鋳

造のトップ、ボトムスラブ、圧延の先尾端などの品質は大きく改善されてきたものの、まだ十分
に安定しているとは言えず、これが生産、物流を乱す最後の元凶となっている。これをどう